

その計画、ちょっと待った！

# 横須賀の施設のあり方を決めるのは市民です。

～「施設配置適正化計画」を、市民の手で見直そう～

横須賀ハコモノ研究会 代表 小林のぶゆき

①市役所の進め方は、あまりに拙速で市民不在です

②学校・保育園など暮らしや人口減に直結する施設は充実させ

減らすなら職員が使う行政センター等から減らすべきです

③市民から声をあげ、私達の手で「市民の計画」をつくりましょう

市役所が来年1月にも確定しようとしている「施設配置適正化計画」。正直言って、まだ内容をよく知らない方も多く、市民の代表である議会でも十分な議論はされていないのが現状です。

市長以下の職員が、「未来にツケを残すまい」と、責任感を持ってここまで準備し、案を作ったこと自体は評価できます。でも、このまま役人が最終決定していいのか？ 横須賀の未来のあり方は、市民が決めるものです。

実は全国的に見ても、横須賀はハコモノだらけの街です。専門家からも「横須賀市はかなり重症ですが、今のような対策で本当に大丈夫ですか？」と問われました。38年後には人口が36%も減るのに、市がとりあえず掲げた17%削減で済むはずがない。専門家は37～48%の削減が必要だと言います。数字が物語る、非情な現実です。

こうして施設を減らすのか？ 代わりに福祉サービスを削るのか？ 職員の人件費をカットするのか？ それとも増税するのか？

……苦しい決断を迫られています。

しかし、施設を減らすにしても、もっと丁寧なやり方があるはず。先進的なまちでは市民との懇談会やワークショップを重ねて、ただ減らすばかりでなく市民満足をどう両立するか、知恵を絞って納得できる計画をつくっています。

ところが横須賀市役所は、最終案を一方的に示して、あとは「何か意見があったら紙で下さい」と言うのです。こんなやり方で、来年1月までの5カ月間に納得させようとは、市民も甘く見られたものです。

私達は、施設問題の第一線で活躍する専門家の方々に、話を伺い、最先端の情報を吸収してきました。そして5回の「横須賀ハコモノ研究会」を通して、得た知見をお伝えし、議論を重ねてきました。

このたび研究会の知見をふまえ、施設を減らしながらも市民満足を向上できる対案を用意しました。ぜひ、市の案と対案をたたき台にしながら、「市民の計画」を一緒に練り上げていきませんか？

近く超党派の議員でのイベントを検討しています。固まり次第ご案内を差し上げますので、下記までご連絡先をお伝えください。

横須賀市議会議員 小林のぶゆき TEL : 070-6640-3927 FAX : 046-801-2177

info@kobayashinobuyuki.com ※頂いた連絡先は、次回イベントのご案内以外には使用しません。